海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022.9.10 - 2022.11.5)

1. 勉学の状況

現在、スコットランドにある Glasgow School of Art (GSA) という学校の Innovation School という 1 年制の大学院に留学しています。ここでは一度就職した経験がある人が多く、ほとんどの学生が 23~25 歳くらいで周りが全員年上という環境で勉強しています。また、学部で勉強していたことは人によってさまざまで、中にはデザインではなく情報系から来ている人もいました。
GSA の特徴としては、芸術大学のためアート系の学生も多く、ドローイングなどのワークショップが行われたり校内に像がたくさん置いてあったりしています。また、プリントや撮影の設備もすごく充実しており、特にカメラを無料で貸してもらえるのが嬉しいです。
Innovation School では 1 年間を Stage1~3 の 3 つに分割しており、そのうちの Stage1 の期間在籍します。Stage1 ではプロジェクトの基礎となるスキルを学んだ後、実際にショートプロジェクトを行い、ウィンタースクールという企業の人たちとコラボしたワークショップが行われる予定です。
Innovation School では、グラスゴーキャンパスとフォレスキャンパスという北の離れたところにあるキャンパスの 2 つで授業が行われています。学生が行き来することはないですが、Zoom で繋いで一緒に講義を受けたり、お互いのキャンパスで行われているプレゼンをリアルタイムで見たりしています。

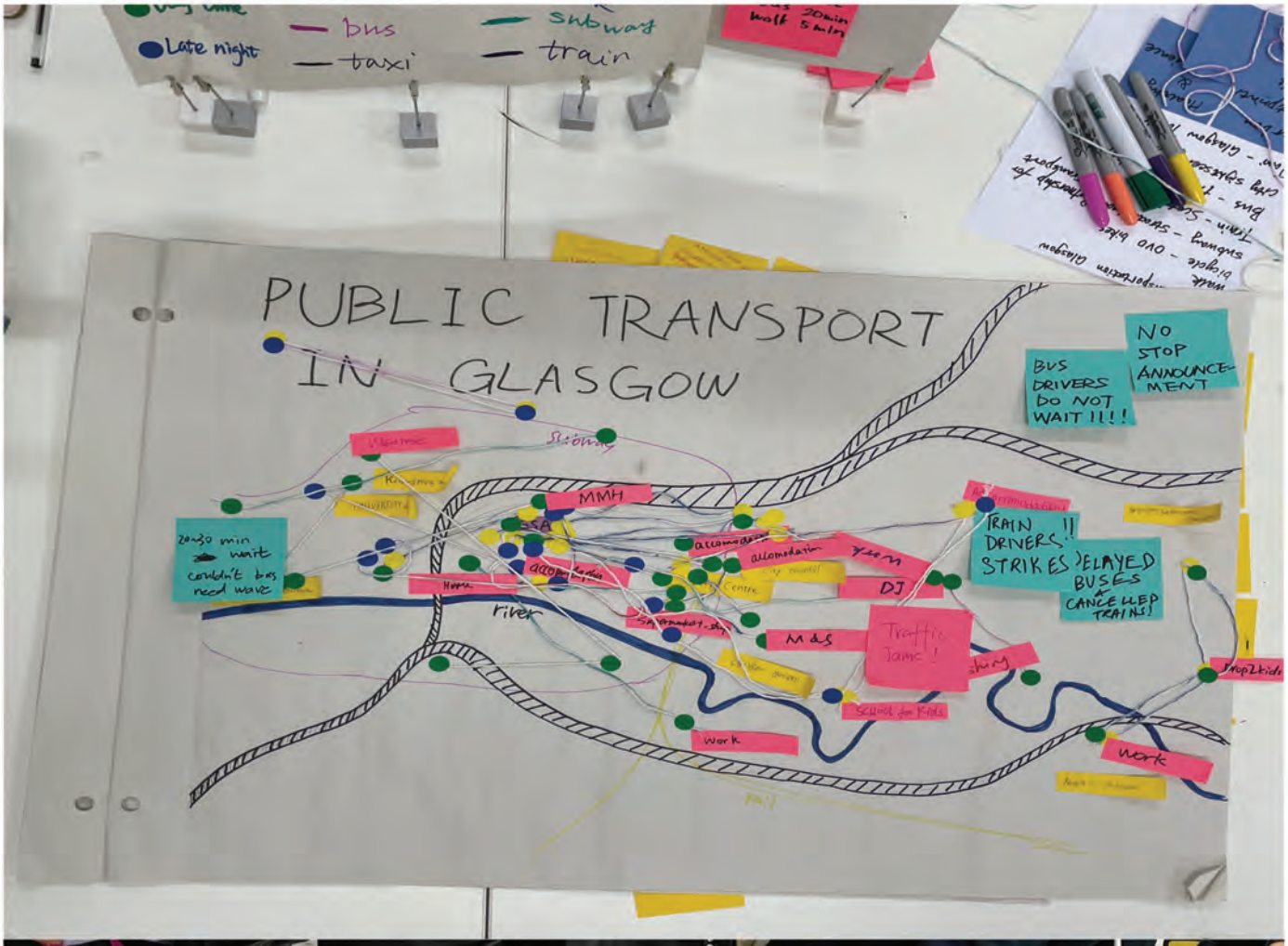
10 月から授業が始まり、最初の 1 か月は、今後のプロジェクトの基礎としてデザインの調査方法やインサイトの発見方法について講義をしたり実践的な練習をしたりしました。授業は平日の 10:00 から 16:00 か 17:00 ごろまであり、毎日ディスカッションや制作、プレゼンをするためとても疲れます。当然ですが全て英語で行われるので、日本語での作業より 2 倍頭が疲れるように感じます。しかし、1 か月間ひたすらこれを繰り返していると、かなり英語で自由に話せるようになってきました。学校の方で紙やペンをたくさん用紙してくれていたので、話しながら伝えたい内容の絵を描いてディスカッションすることでスムーズに話せていると感じています。

GSA の授業を通して面白いと感じたことは、デザインの調査において「エンゲージメントツール」というものを制作し活用することです。これはインタビューする際に使うツールで、ボードゲームのようなものを参加者に実際に使ってもらいながらインタビューするというものです。今までは単に聞き取り調査をするだけではなかなかインサイトに辿り着けないことが多いと感じていました。しかし、エンゲージメントツールを使うことで、参加者に楽しんでもらい積極的に参画してもらえる効果、参加者が手を動かしながら経験を思い出すことで参加者自身がインサイトに気づいたりインサイトに近いことを言ってくれたりする効果があるということがわかりました。

11 月からはプロジェクトが始まりますが、それについては中間の報告書に記載したいと思います。

エンゲージメントツールと実践練習の様子

上の写真は作成したツールで、グラスゴーシティ内の人々の移動手段について可視化することが目的です。下の写真のように参加者に糸で移動した地点を繋いでもらいながら調査を行いました。



2. 生活の状況

GSA 在籍中は学生寮に住めることになったので、寮で生活しています。しかし、グラスゴーには多くの学生がおり、なかなか住居が見つからない人もいるようです。寮に入ることができれば学校まで 5~10 分で行けるのですが、アパートに住んでいる人は 30 分くらいかけて通っている人もいると聞きました。寮ではキッチンを他の学生とシェアしながら生活しています。5~6 人で 1 つのキッチンをシェアしながら生活しており、これをフラットと言うのですが、寮には何十ものフラットがあり、たまに他のフラットに遊びに行ってみんなでご飯を食べたり遊んだりできるので楽しいです。

グラスゴーの街は歴史のある建物が多く、ヨーロッパらしい雰囲気があります。下の写真はグラスゴーで最も大きい通りでさまざまなお店が立ち並んでいるため、留学が始まったばかりの頃はよく通って日用品を買っていました。
食べ物はスーパーであれば日本と同じくらいの金額で購入できるため、基本的には自炊して生活しています。アジアの食品を取り扱っているお店もあり、味噌やカレールウなども購入できるため、和食を食べることができるのは嬉しいです。外食はとても高いのでほとんどしませんが、日本料理をイギリス向けにアレンジした面白いお店があったので、そこは行きました。完全に日本の味ではなくなっていましたが美味しかったです。
また、スコットランドには GREGGS というローカルショップがあり、パイやドーナツなどの軽食を買うことができます。イギリスのパイは軽くてサクサクしてるものではなく、ぎっしり肉が入っており、ずっしりザクザクと言う感じでしたがとても美味しかったです。フィッシュアンドチップスや紅茶もすごく美味しいので、個人的にはイギリス料理がとても好きです。

グラスゴーには下の写真のような教会があったりミュージアムがたくさんあったりして観光地としても人気な都市です。グラスゴー内には地下鉄があり交通網が整っているので休みの日はよく出かけていろいろなところを見に行っています。特にミュージアムは全て無料で入ることができ、貴重な作品がたくさん展示されているのでとても驚きました。勉強になるものが多く、アートやデザインを学ぶ学生にとってはとても嬉しい街だと思います。
しかし、留学前に聞いていた通りとても雨が多いので常に折り畳み傘を持ち歩いている必要があります。山の天気のようにすぐに止むことが多いので、少しの雨だったら傘を差さずにフードをかぶって凌いでいる人も多いです。
一方で、都市から少し離れるととても綺麗な自然を見ることができます。左下の写真はグラスゴーから北にバスでツアーに行った時に撮った写真で、右下のものは電車でローモンド湖と言う湖に遊びに行った時の写真です。遊びに行った時は晴れていたので、広大な自然を満喫することができました。

ミュージアム

グラスゴーにある美術館や博物館の写真です。上から、

・Kelvingrove Art Gallery and Museum
・Riverside Museum
・Gallery of Modern Art

他にもたくさんありますが、この 3 つが個人的には好きです。特にケルビングローブ美術館・博物館はとても広く、全て見終わるまで 4 回通いました。

最後に、最近行ったエジンバラを紹介します。エジンバラはグラスゴーから電車で 50 分でいくことができました。ただ、イギリスではよくストライキで電車が動かないことがあるので、事前にストライキがないか調べておくことが必要です。左下の写真はエジンバラにあるメインの駅で、たくさんの電車が停まっていました。日本の電車と見た目が全く違うので見ていて楽しかったです。
エジンバラは観光地が密集しており、1 日でさまざまなところを見て回れるのが魅力です。1 番大きな写真はエジンバラの街並みです。とても歴史がある街並みで、the イギリスという雰囲気を感じました。中央の少し右に写っているものがエジンバラ城という大きな岩の上に建つ要塞です。右下の写真は Victoria Street という通りで、ハロウィンだったこともありハリーポッターのローブを来ている人もいました。エジンバラにはハリーポッターにまつわる場所やお店もあるので、ハリポタファンとしては最高でした。

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2022.11.6 - 2023.2.11）

1. 勉学の状況
2. 生活の状況

1. 勉学の状況

1 月末にグラスゴー芸術大学での授業を全て終え、現在はドイツでのプログラムとの間の休業期間です。勉学については、前回の報告書の後からグラスゴー芸術大学で授業を終えるまでのことを書きます。
11 月からは、デザインの調査手法に関する学習とプロジェクトが始まりました。授業はこの２つだけで、10 月までのように毎日学校に来る必要もなく、各自で計画を立てて進めていき、12 月から 1 月にあたりに提出するという課題でした。どちらも日本では経験できなかった新しい発見があり、大変でしたが充実しました。

プロジェクトについて

まず、プロジェクトについてですが、先生たちによって学生が 4〜5 人ずつのグループに分けられ、テーマに沿ったリサーチを行い、1 月に最終プレゼンをするというものでした。今回のテーマは「自然と人間との関わり」というもので、とても大きく漠然としていました。そのため、各グループがそれぞれやりたいトピックを考えながら進めていき、最終的にはソリューションを考えたグループ、自然について鑑賞者に考えさせるアート寄りな提案をしているグループなど、個性が出ていて面白かったです。
また、千葉大学でのデザインと大きく違う点として、リサーチそのものやプロジェクトの中で行ったことの方が、どのような価値を創るかよりも重要視されていることを感じました。最終プレゼンでは、全てのグループが「どのような調査を行ったか」ということや、「どのような結果が得られ、どのように最終成果物につなげたか」を説明するのに多くの時間を使っていて、最終的なアイデアや価値については千葉大学のデザインの授業と比べるとあまり凝っていないように感じました。

自分達のグループは、今回のプロジェクトでグラスゴー市だからできる提案にフォーカスしようと決めたので、まずは地域の人々の生活を知ることから始めました。グラスゴーの特徴としては、北海道よりも高緯度にあり、夏至の時は 17 時間太陽が出ていますが冬至の時は 7 時間しかなく、大きな差があります。ここに着目し、人々がどのように季節に合わせた生活をしているのかを把握するために街頭で調査を行いました。調査では下の写真のようなエンゲージメントツール（インタビューを促進するための制作物）を使い、夏と冬における生活のポイントについてインタビューを行い、発見したことをもとに最終成果物につなげました。

デザインの調査手法に関する学習について

この授業は個人ワークで、プロジェクトと並行しながら空いている時間に調査手法に関する文献を読んで知識をつけていくというものでした。様々な調査手法の中から自分の最も気になるものを１つ選択し、特徴や、他の手法と比較した際の長所・短所をまとめたり、自分のデザインにどう活用するかを考えたりするという課題でした。
今までは調査に関する学術的な文献を読むことはほぼ無かったので、とても勉強になる部分もありましたが大変でした。論文や分厚い本を読んでいくことになるので、それだけでもかなり大変なのですが、内容が抽象的なものもあるので、書いていることを把握することにも時間がかかることがありました。
自分はエスノグラフィー（調査する人自身が対象とする空間やコミュニティのなかに実際に行って体験することでデザインの機会を発見する手法）を選び、インタビュー調査などのデザインの機会を発見するための他の方法と比較しながらまとめていきました。
最終的には、1000 語にまとめたレポートと選んだ調査手法の特徴を表す制作物の２つを提出する必要がありました。レポートは、初めは 1000 語も書けるか心配だったのですが、意外と少なく、むしろ大量の情報を 1000 語以内にまとめる方が苦労しました。制作物については正解はなく、立体作品でも平面作品でもなんでも良いので、調査手法の特徴を表すにはどのような表現が適切かを考えて実際に手を動かして作るということが大切なようでした。普段はデザインをやっているとどのような表現でも良いということはあまりないので、美術大学らしいなと感じました。

最終的な制作物は下の写真のようなものになりました。自分が調査する立場に立って調査結果（黄色い四角）を手に入れるために下のバーを引っ張るというものです。正しくバーをいじらないと黄色い四角は降りて来ず、黒い丸（現場における人同士の関係性や調査対象者の行動・考えなどの調査において重要な要素）をいじってしまう可能性があります。これは、実際のエスノグラフィーでも調査する人自身が環境に影響を与えてしまうことがあることを示唆しています。
この課題では、各学生が様々な表現方法で制作をしていたので、制作物にもその人らしさが現れているものが多く、展示は見ていて面白かったです。また、この制作物のようにギミックを効かせたものを作っている人はいなかったので、他の学生にとってははそれが面白かったようです。

2. 生活の状況

生活の状況について書く前に、これから留学する方も参考のためにこの報告書を読まれるかもしれないということで、留学に持ってきてよかったものをランキング形式で書きます。

留学に持ってきて良かったものランキング

1. 電子レンジでお米が炊けるやつ
2. モバイルバッテリー
3. 常備薬
4. 防犯用ポーチ
5. サングラス

1. 電子レンジでお米が炊けるやつ
スコットランドではスーパーでお米が買えますが、毎回鍋で炊くのは大変なので、これがあって本当に良かったです。ヨーロッパはパンやパスタが安いので、留学を始めたばかりの頃はパンと麺だけでも生きていけるなと思っていたのですが、米をずっと食べないと胃の調子がおかしくなってきたので、米の重要性を実感しました。

2. モバイルバッテリー
知らない土地でスマホのバッテリーがなくなると本当に悲惨だと思います。バスや電車にも充電できるところがあったりもするのですが、全然見つからないこともあるので、予備のバッテリーはあった方が良いです。

3. 常備薬
海外でも薬は売っていますが、使い慣れているものがあった方がやっぱり良いなと感じました。留学してから気候の違いで何度か体調を崩したので、本当に持ってきて良かったです。

4. 防犯用ポーチ
ものを盗まれたことは今のところ１度もないですが、ポーチがあると安心して行動できます。普段はダミーの財布にもう使ってない停止済みのカードを入れて持ち歩き、基本はカードを取り出さずにスマホでタッチして支払いをしています。基本海外はキャッシュレスが進んでいるので、現金を使った事はほとんどないです。

5. サングラス
ヨーロッパは緯度が高いので、冬は太陽の光が直に目に入って来ることが多く、意外とサングラスを重宝しています。

スコットランドからドイツに来るまでの生活

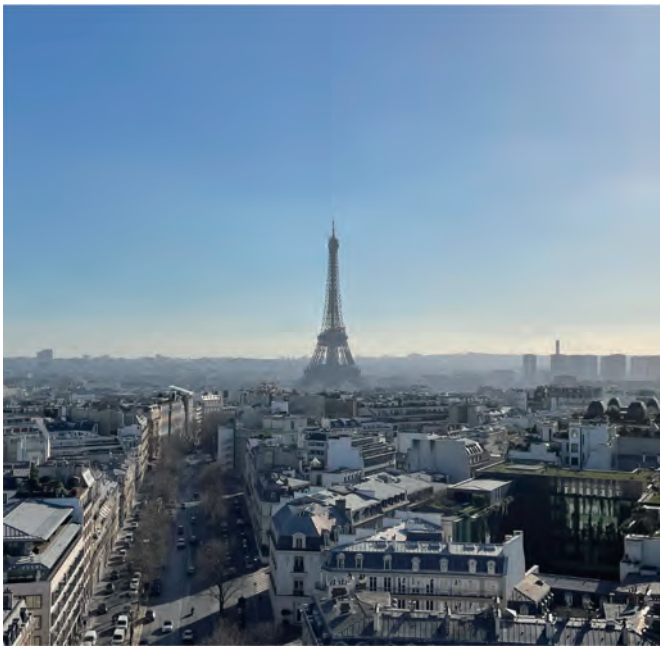
前回の報告書ではスコットランドでの生活について書いたので、今回はドイツに移動するまでのことを書きます。
スコットランドからドイツへは飛行機でいくのが手っ取り早いのですが、今回は電車とバス、格安ホテルを使って旅をしながら行きました。具体的には、グラスゴーからロンドン、パリで数泊ずつしてケルンまでいきました。旅行もしつつ色々な国の人と話せて最高でしたが、デメリットも含めて書いておきます。

メリット	デメリット
・荷物の重量制限がほぼない **・安く旅できる** **・たくさんの人と知り合える**	**・所持品の管理（南京錠があると良い）** **・常にある程度の緊張感をキープ** **・体力が必要**

まず、メリットはコスパが良いということです。荷物については、スコットランドにいた間に知らぬ間に増えていて、出発する前に要らないものをだいぶ捨てたのですが、それでもバッグ 1 つ分増えました。飛行機だと重量制限が非常に厳しいのですが、バスや電車はほぼない（バスは一応規定がありますが飛行機より緩く、量られたことも一度もない）ため、これは大きなメリットでした。
また、安く旅ができることについては、海外は長距離移動バスがとても安く、例えばグラスゴーからロンドンも片道 3000 円くらいで行けました。旅行の時期にもよったり、ギリギリになってチケットをとると高くなったりしますが、うまくやればかなりコスパが良いです。
また、この旅では 5~6 人で一部屋を使う寮のようなホテルを利用しました。初めは少し不安があったのですが、フレンドリーな人が多く楽しく過ごせたので、このような経験をできて良かったと感じています。今振り返れば、楽しくて安くてキッチンも自由に使えるホテルだったので、最高でした。一般的なホテルだと電子レンジやコンロなどはないのが普通なので、食べ物は買ってくるか外食しかないのですが、自炊ができるので出費をかなり抑えられました。

次に、デメリットとしては所持品の管理や緊張感を常に持っていることが必要という点です。寮のようなホテルでは、基本的に安全な場所でスーツケースなどを預かってもらえることが一般的だと思いますが、リュックなどは宿泊する部屋に置いておきます。ロッカーがあることも多いのですが、基本的に鍵は自分で用意する必要があるので、南京錠を持っていると良いと思います。（ちなみにシャンプーなども自分で用意する必要があります）また、プライベートな空間が少ないため、緊張感を完全に解くことができず、疲れやすいと感じました。特に長く旅行している時は、日中歩き回ることが何日も続くため、無理をしないよう体力のコントロールはうまくやる必要がありました。

最後に、旅の途中の写真たちです。



海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2023.2.12 - 2023.7.26)

1. 勉学の状況
2. 生活の状況

1. 勉学の状況

今回の報告書では、Köln International School of Design (KISD) での授業について記載いたします。
KISD では、全ての学生が Integrated Design というコースに所属し、例えばグラフィックやプロダクトのようにぞれぞれの学生が専門を分けることなく、幅広い授業から選べる仕組みになっています。プロジェクトはプロダクトにフォーカスしたものや展示デザインにフォーカスしたものなど、様々な種類のものがありますが、その中から自分の興味のあるものを分野横断的に自由に選択できるという仕組みになっています。それぞれのプロジェクトには人数制限があるため、希望のものを履修できない可能性もありますが、留学生は次年度にまた選択するというチャンスがないため、優先して選べることが多いように感じました。
また、履修計画も自分で自由に作れるので、長期のプロジェクトを選ぶ人もいれば、1 週間詰め込み型のような短期のものを複数履修するというカリキュラムも作れます。1 セメスター（約４ヶ月）の間でプロジェクト等の授業を履修し、期末は各授業のレポート、KISD での留学期間全体に関するレポート、最終展示を行って終了という流れでした。

プロジェクトについて

プロジェクトはサービスデザインのプロジェクトと、プロダクトデザインのプロジェクトを選びました。
サービスデザインのプロジェクトでは、現在実用化されつつある自動運転のタクシーについてフォーカスしたものでした。学生 3 人でグループとなり、自動運転が実装されることで起こるユーザのペインポイントを調査し、ソリューションを考え、簡易的なプロトタイピングによりアイデアを表現するという流れで行いました。私達の班は、走行中に感じるユーザの不快感についてのペインポイントにフォーカスし、最終的な UX は車内に搭載されているモニターを媒体としてアウトプットすることになりました。この授業では UX のアイデアを形にすることが重要なポイントだったため、車内をイメージした空間に実際に座って UI フローを体験できるという簡易プロトを作成し、プレゼンでも実演することでアイデアを伝えました。

車内のモニターの UI フローを作成したプロトタイプの写真です。

プロダクトデザインのプロジェクトは、KISD で行われたインターナショナルウィークというイベントの一環で、クロアチアからいらっしゃった先生方による授業でした。学生も他の国から来ている人が多く、国際デザインワークショップという雰囲気を感じました。このプロジェクトでは自分自身で新しいモノをデザインするということではなく、身の回りにあるモノやその使われ方をリサーチし、最後にリサーチをまとめて展示をするというものでした。具体的には、スーパーノーマルという概念について学習し、身の回りにあるスーパーノーマルなモノについて考えたり、ケルン市内で使われているモノを観察してその使われた形跡からアフォーダンスについて考察したりしました。

スーパーノーマルなモノとアフォーダンスに関する調査のまとめを展示した様子です。

EU 本部での課外学習について

KISD での学習とは別ですが、ケルンにいる間に住んでいた寮の人たちとブリュッセルに出向き、EU の政治システムについて学習を行いました。各セメスターごとにみんなで一緒に学ぶ題材があるらしく、その題材に沿った場所へみんなで遠出をするそうです。今回はEUのロビーイングが主な題材だったので、ブリュッセルに行きました。

※ロビーイングについて
日本ではあまり馴染みがない気がしますが、政治によって自分達の会社や団体にとって有利なルールを決められるように、政治機関のロビーで政治家に訴えるような行為からこう呼ばれているそうです。自分に都合の良いルールを決めるということだけ聞くと良くないイメージに感じますが、利益を守るために必要なこととして政治家に知識を提供し、より良いルールづくりをするためには必要なものだと認識されているようです。他の会社に不利益を与えたり、不正を行ったりするのは良くないので、透明性を持ってロビー活動ができるようなルール作りも進められています。

この課外学習では、寮のみんながそれぞれテーマに関する調査を行い、ブリュッセルまで旅行しながらその知識を発表して共有していくという形で行われました。デザインとはあまり関連のないことまで学ぶことができたのは貴重な経験でした。
また、ブリュッセルは行きたいと思いつつ行けていなかったところだったので、この機会で観光もできて楽しむことができました。

EU 本部の写真です。

ついでに観光も楽しみました。

2. 生活の状況

今回は主にケルンでの生活と帰国前にしたドイツ南部の旅行について記載します。

ケルンでの生活について

まず、ケルンでの生活についてですが、1 番苦労したのは部屋を見つけることでした。2 月からケルンに来る予定だったため前年の 10 月から探し始め、数十件コンタクトをしてみましたが見つかりませんでした。ドイツでは部屋を提供したい人が賃貸の斡旋をしているサイトで部屋を投稿し、興味のある人が掲示した人にコンタクトすることで部屋を見つけられるのですが、基本的には先着順で部屋を見に行ったり面談したりして決まっていくようです。そのため、コンタクトするのが遅いと返信が来ないということも多くあります。また、1 年以上滞在できる人限定だったり、ドイツ語が話せないと厳しいこともあったりするみたいで、一向に見つかりませんでした。
結局見つからないままドイツに到着し、1 週間ほどホテル滞在していると、12 月ごろに連絡して「部屋を空けられるかまだわからない」と回答をもらっていた寮から、入居できるという連絡をもらえたので、無事に留学を継続することができました。また、最終的には帰国までこの寮に滞在していたのですが、学生寮を提供している公的機関である WERK というサイトにも登録していました。寮への入居を決めた後でしたが、何件か入居可能な部屋を紹介してもらえました。
また、ケルンでは一人暮らし用のアパートを借りると家賃がとても高くなりますが、他の人と共同で住むと安く抑えられます。私の場合は 1 件の家に 20 人ほど（ほとんど学生）が住んでおり、自分の部屋はありますがキッチンと風呂、トイレは共用というところでした。家賃は光熱費込みで 300 ユーロ（40,000 円〜45,000 円くらい）でした。初めは多くの人が同じ空間で生活することに少し抵抗があったのですが、入居してみるととても楽しい体験をたくさんでき、この寮に入れてとてもラッキーだったと感じています。
その他には、住民登録や長期滞在申請など手続きが多かったり、公共交通のルールやペットボトルリサイクルのシステムに慣れるのに時間がかかったりしました。特に公共交通機関は、学生が持つセメスターカードで無料で乗れるものもありますが、チケットを買わなければならないものもあります。ドイツでは改札は無く、抜き打ちでチェックされ、チケットがなければ罰金というシステムなので、気をつける必要がありました。

ケルンの街そのものは、とても穏やかなところで暮らしやすかったです。他の都市へのアクセスも良くスーパーも多くあるので暮らすにはとても便利なところだと思います。しかし、カーニバルの時だけは全く違う雰囲気になります。街全体がハロウィーンのように仮装した人とビールで溢れかえります。
また、近くにデュッセルドルフという街があるのですが、ここでは毎年「日本デー」というイベントが行われており、日本の武道や書道といった文化体験、漫画やアニメ文化を通した交流、夜には花火大会があり、多くの人が訪れて賑わっていました。

カーニバルの様子です。パレードの車からお菓子を撒いています。

日本デーのデュッセルドルフです。歩けないくらい大勢の人で賑わっていました。

ドイツ南部の旅行について

今回の留学では、最後にドイツ旅行をすることができました。ドイツの西側のベルギーの近くに位置しているケルンから、南西のヘイデルベルク、南東のミュンヘン、最後にオーストリアのザルツブルクまで行きました。
街の観光もそれぞれの地域で特色があって面白かったですが、ドイツには各地域ごとにソーセージや地ビールがあり、味が違うので色々比べてみることができ、とても楽しかったです。

ハイデルブルクは小さいですがとても綺麗な街並みで、ハイデルベルク城に行けば街全体を見下ろすこともできました。また、ケルンではカリーブルスト以外のドイツ料理を食べられる店が見つからなかったのですが、ハイデルブルクではずっと食べたかったシュニッツェルを食べることができました。

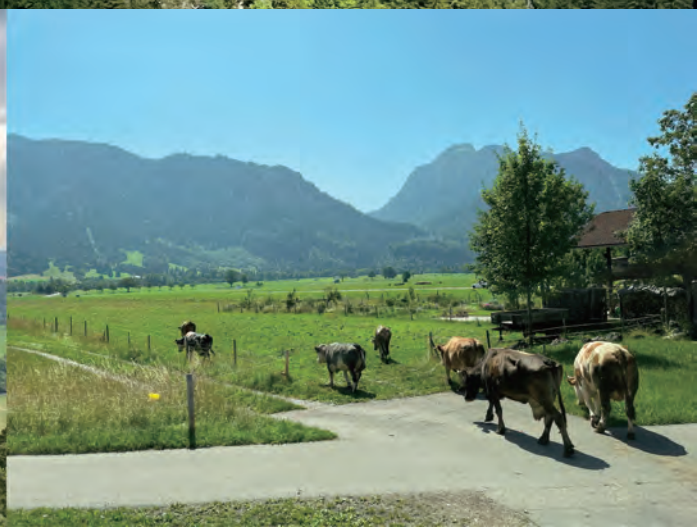
ハイデルベルクの街並みとシュニッツェルです。

ミュンヘンは観光スポットが中心部に集中しており、短時間でめぐることができました。また、ミュンヘンから日帰りで行ける観光地が多くあり、ミュンヘンを拠点として 5 日間も観光をしてしまいました。特にツークシュピッツェというアルプス山脈にあるドイツ最高峰からの景色と山頂で食べたカリーブルストは最高でした。

ミュンヘンの市庁舎とニーンフェンブルク宮殿です。

ツークシュピッツェの頂上付近で食べたカリーブルストと山頂です。

ミュンヘンから日帰りで行ったニュルンベルクです。



ノイシュバンシュタイン城にも行きました。城に行く途中で家畜の牛の移動に出会いました。

最後に訪れたのが、オーストリアにあるザルツブルクです。ドイツ語で塩をザルツというのですが、この地域は塩鉱から採れた塩で繁栄したことからこの名前になったみたいです。今も観光地として塩鉱が多数あり、中に入って見学することができるようになっています。また、お土産屋さんにはたくさんの塩や岩塩が並んでいました。
またザルツブルクはモーツァルトの生家があり、音楽の街としても賑わっています。ミュージシャンが街中にあるステージや道で演奏していて、生演奏をたくさん聴くことができました。

ザルツブルクの街並みです。左下の写真の黄色の建物がモーツァルトの生家だそうです。また、ドイツやザルツブルクではよく馬車が町を歩いていました。

近くのハルシュタットというところにも行きました。山に囲まれ綺麗な町でした。